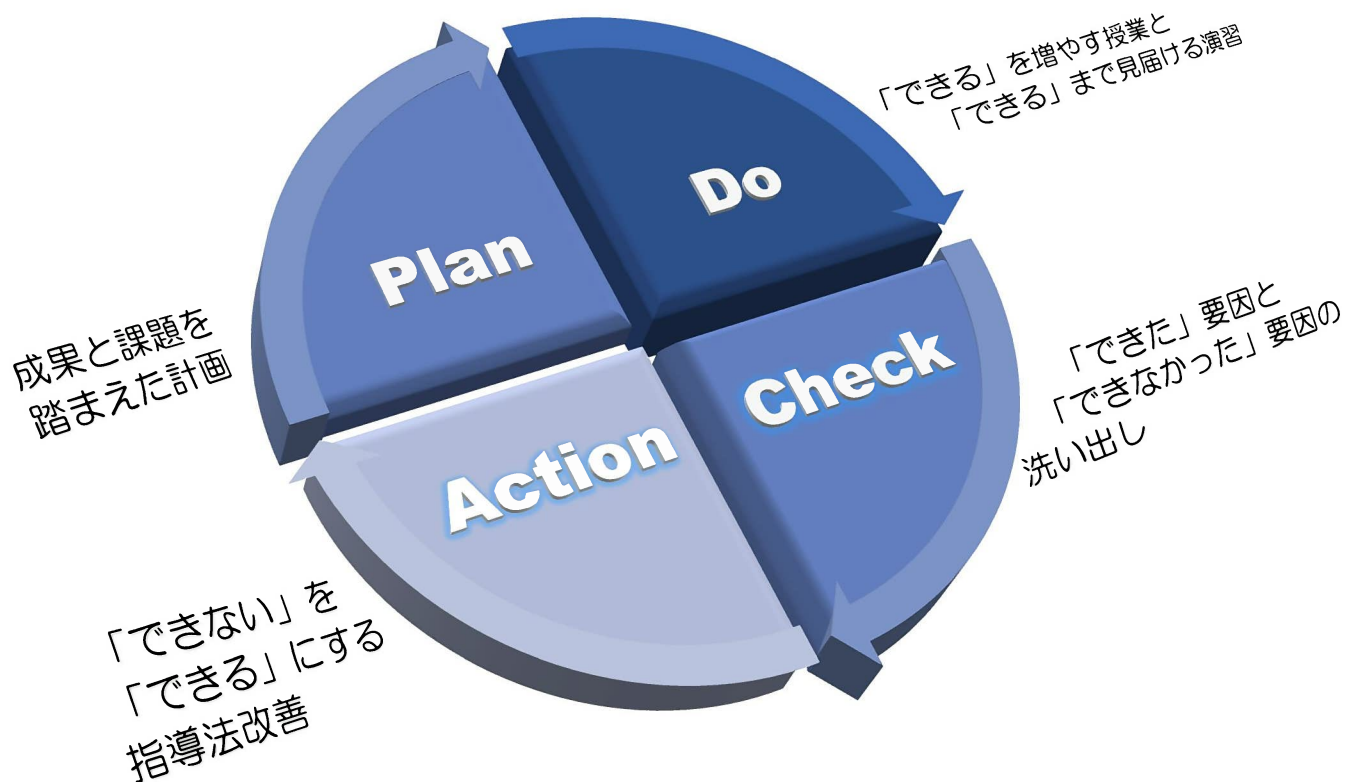


令和元年度

# 鹿児島学習定着度調査結果報告書

(令和2年1月調査)

～調査結果を生かした授業改善の手引～



令和2年3月



鹿児島県教育委員会



# 目 次

I	調査の概要	1
II	結果の概要	3
III	特集	5
IV	本調査の活用の仕方	10
V	各教科の結果	
1	各教科の全体平均通過率	12
2	各教科の結果概要	13
3	各教科の平均通過率と受検者の正答数分布（県全体）	
(1)	小学校	
・	国語	15
・	社会	16
・	算数	17
・	理科	18
(2)	中学校	
・	国語	19
・	社会	21
・	数学	23
・	理科	25
・	英語	27
4	各設問の分類と平均通過率	
(1)	小学校	
・	国語	29
・	社会	30
・	算数	31
・	理科	32
(2)	中学校	
・	国語	33
・	社会	35
・	数学	37
・	理科	39
・	英語	41
5	県全体の小問別の正答数，誤答数，無解答数	43
6	各教科の授業改善の視点	
(1)	国語	48
(2)	社会	49
(3)	算数・数学	50
(4)	理科	51
(5)	英語	52
VI	児童生徒質問紙の結果概要	53
VII	学校質問紙の結果概要	58

## I 調査の概要

### 1 趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識及び技能や思考力、判断力、表現力等に関する学力の定着状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。

また、各学校に全体的な傾向との比較・分析などを通じて、自校の課題を明確にさせ、問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るとともに、児童生徒の学力向上を図る。

### 2 調査の対象学年、学級等

- (1) 県内全ての公立小学校第5学年、中学校第1、2学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし、複式学級を有する学校においては、履修していない内容を調査から除外して実施する。なお、小・中学校における特別支援学級の児童生徒については、該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。
- (2) 特別支援学校においては、該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学校種	学年	実施校	調査児童生徒数
小学校(小学部)	第5学年	493校	14,107人
中学校(中学部)	第1学年	222校	13,028人
	第2学年	218校	12,558人

※ 本調査に関わる調査問題、報告書等において、義務教育学校の第7学年を中学校第1学年、義務教育学校の第8学年を中学校第2学年、義務教育学校の前期課程を小学校、後期課程を中学校と読み替えることとする。

※ 調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

※ 調査児童生徒数は1教科でも学力調査を実施した児童生徒の総数を示す。各教科の調査人数は、欠席等により異なる。

### 3 調査の内容

#### 学力調査

主として「基礎・基本」に関する内容と、主として「思考・表現」に関する内容で出題し、調査対象教科の学力の定着状況（当該学年の12月終了程度までを範囲とする）について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校(小学部)】 第5学年 …… 国語、社会、算数、理科

【中学校(中学部)】 第1、2学年 …… 国語、社会、数学、理科、英語

#### 学習状況調査(児童生徒質問紙)

質問紙により、調査対象者の学習に関する意識や学び方などの学習状況について調査する。

#### 学校質問紙調査

学力向上の取組、校内研修の状況について調査する。

### 4 調査の実施時間

#### 学力調査

小学校(小学部) 45分(調査票の配布・説明等5分、調査時間40分)

中学校(中学部) 50分(調査票の配布・説明等5分、調査時間45分)

#### 学習状況調査

小・中学校(小・中学部) 15分(調査票の配布・説明等5分、調査時間10分)

### 5 調査の実施日

学力調査 令和2年1月15日(水)・16日(木)

学習状況調査 令和2年1月15日(水)～17日(金)

### 6 調査の採点及び結果の集計・分析

- (1) 各学校は、自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い、当該市町村教育委員会へ報告する。また、集計結果をかがしま学力向上支援Webシステムに登録する。自校の調査結果については、保護者に対して説明責任を果たすと同時に、かがしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら、その後の指導方法等の改善に生かす。
- (2) 各市町村教育委員会は、管下の学校の調査結果を集計し、県教育委員会へ報告する。自市町村の調査結果については、かがしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら、自市町村の学力向上や指導法改善への取組に生かす。
- (3) 県教育委員会は、調査結果を集計・分析し、県全体の学力の定着状況や学習状況について公表するとともに、指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し、各学校に配布することにより、各学校の学力向上への取組を支援する。

## 7 学力調査の問題内容

鹿児島学習定着度調査は、次の二つの内容で出題している。

- ① 主として「基礎・基本」に関する問題
- ② 主として「思考・表現」に関する問題

②の問題は、次の内容を問うものとする。

教科名	番号	主として「思考・表現」に関する問題の内容
国語	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	身近な資料を用いて、表現の仕方や文章の特徴を捉え、自分の表現に役立てることができるようにする問題
	3	複数の情報を関連付け、それを基に自分の考えを論理的に書くことができるようにする問題
社会	1	社会的事象の特徴や背景・原因等について、自分の考えを筋道立てて説明する問題
	2	提示された資料を関連付けたり、比較したりして読み取ったことを基に、社会的事象について説明する問題
	3	歴史的事象の相互の関係を判断したり、社会的事象について正しく説明しているものを判断したりする問題（選択肢による出題）
算数・数学	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	示された課題解決の過程を、新たな課題に活用して解決する問題
	3	課題解決の方法や判断の根拠などを言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道立てて説明する問題
理科	1	観察、実験の結果（事実、データ）から結論を考察する問題
	2	原理、法則を他の身近な現象に当てはめて説明する問題
	3	視覚的に実感しにくい現象をモデルで説明する問題
英語	1	「聞くこと」、「話すこと」においては、聞き取った英語を基に、英文を完成させたり、英語の質問文に英語で答えたりする問題
	2	「読むこと」においては、文と文のつながりや段落と段落の関係、内容に合う英文選択などを問う問題
	3	「書くこと」においては、対話やまとまりのある文章における流れや文と文のつながりに留意し、適切な英文を書く問題

○ 各教科の「各設問の分類と平均通過率」の「思考・表現」の欄に番号が記載されている。

## II 結果の概要

### 1 学力調査の結果（平均通過率 [%]）

※  は、70%以上。

〔令和元年度〕

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	73.6	72.2	76.7	81.2	
中1	全 体	79.6	64.9	71.3	64.8	67.9
中2	全 体	74.5	61.2	60.7	58.0	61.0

#### 〈参考〉

〔平成30年度〕

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	60.1	72.9	72.8	54.6	
中1	全 体	61.9	62.2	59.7	59.2	73.3
中2	全 体	67.6	51.2	60.8	50.3	51.7

〔平成29年度〕

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	66.8	65.6	62.7	68.8	
中1	全 体	65.1	53.3	62.8	55.1	63.3
中2	全 体	63.9	57.1	59.0	46.3	59.8

### 2 概要

- (1) 毎年度、本調査の設定通過率を「基礎・基本」8割、「思考・表現」5割、全体の通過率を7割に設定し、調査問題を作成している。

平成30年度の調査では、全体の通過率が7割を超えた教科が、14調査中3教科であったが、令和元年度の調査では、14調査中7教科と増え、改善が図られた。

また、全体の通過率が7割に達していないものの、中2社会、中2理科、中2英語など、通過率が昨年度から大きく上がった教科もある。

- (2) しかしながら、例年課題となっている中2数学については、今回の調査でも改善が見られなかった。また、昨年は通過率が7割を超えることができていた中1英語は、今年度は7割に達しなかった。
- (3) 今年度の調査においても、過去に課題であった問題について、追跡する問題を出題したところ、課題が継続している問題があり、指導法改善等の取組が必要である。

### 3 地区別の平均通過率

#### (1) 小学校第5学年

(%)

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	全体	73.6	73.5	73.9	72.7	73.3	75.3	72.5	77.3	72.1
	基礎・基本	76.6	76.6	76.3	76.0	76.9	78.0	75.5	79.4	75.2
	思考・表現	68.4	68.2	70.0	67.1	67.3	70.8	67.5	73.8	66.8
社会	全体	72.2	71.6	72.6	72.6	71.2	73.9	72.1	77.5	71.6
	基礎・基本	73.6	72.8	73.7	74.2	73.2	74.7	73.8	78.0	73.4
	思考・表現	69.0	68.7	70.1	68.7	66.5	72.0	68.1	76.4	67.3
算数	全体	76.7	76.2	79.3	74.4	75.0	78.8	77.0	81.6	75.6
	基礎・基本	79.9	79.2	83.2	77.3	78.5	82.1	80.6	85.4	78.9
	思考・表現	69.7	69.9	70.9	68.2	67.4	71.7	69.4	73.4	68.4
理科	全体	81.2	80.4	83.4	80.7	80.9	82.9	80.7	83.8	81.3
	基礎・基本	87.5	86.5	90.3	86.9	87.4	88.6	87.5	89.3	88.2
	思考・表現	70.2	69.7	71.4	69.8	69.4	72.8	68.7	74.2	69.3

#### (2) 中学校第1学年

(%)

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	全体	79.6	80.2	81.2	79.3	78.2	79.7	78.9	82.3	78.4
	基礎・基本	82.8	83.7	84.1	82.1	81.2	83.2	81.9	82.0	81.8
	思考・表現	73.6	73.5	75.8	74.1	72.6	73.0	73.2	83.0	72.2
社会	全体	64.9	66.5	67.9	62.4	63.0	64.3	61.2	71.2	64.8
	基礎・基本	67.2	69.1	69.6	65.0	65.1	66.3	63.8	74.3	66.8
	思考・表現	60.1	61.4	64.5	57.3	58.8	60.3	55.9	65.0	60.6
数学	全体	71.3	72.4	71.8	71.2	69.3	72.3	69.3	74.9	68.4
	基礎・基本	79.2	79.9	80.1	79.5	77.9	79.7	77.6	82.2	76.8
	思考・表現	54.6	56.4	54.4	53.6	51.4	56.5	51.5	59.6	50.6
理科	全体	64.8	66.4	66.0	66.9	62.5	63.8	61.2	69.1	63.7
	基礎・基本	71.5	73.0	72.8	73.8	69.3	70.6	68.5	73.8	69.7
	思考・表現	51.3	53.0	52.5	53.1	48.9	50.3	46.5	59.8	51.4
英語	全体	67.9	69.0	68.6	66.1	64.8	70.5	64.7	71.1	67.4
	基礎・基本	69.6	70.7	70.3	67.6	66.9	72.4	66.4	72.6	69.0
	思考・表現	64.1	65.4	64.9	62.9	60.1	66.5	61.3	67.9	63.9

#### (3) 中学校第2学年

(%)

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	全体	74.5	75.3	75.6	72.6	72.9	74.6	73.3	77.4	75.1
	基礎・基本	78.1	78.6	79.6	77.1	76.5	78.6	77.2	81.1	78.0
	思考・表現	66.4	67.9	66.9	63.1	65.0	65.5	64.7	69.1	68.7
社会	全体	61.2	62.0	62.1	56.9	60.2	61.8	59.4	62.6	62.3
	基礎・基本	59.7	60.8	62.3	53.8	58.9	60.4	58.0	61.4	59.7
	思考・表現	64.6	64.9	61.8	64.3	63.4	65.3	62.9	65.5	68.6
数学	全体	60.7	62.1	61.2	61.4	58.3	62.0	58.2	60.3	57.9
	基礎・基本	65.9	67.1	65.5	67.4	63.2	66.9	64.0	65.0	64.0
	思考・表現	50.9	52.7	53.1	50.0	49.0	52.6	47.3	51.3	46.5
理科	全体	58.0	59.2	59.8	59.2	56.9	57.9	54.8	58.6	56.5
	基礎・基本	61.6	62.5	63.5	63.2	60.9	61.7	58.5	62.6	60.4
	思考・表現	50.7	52.5	52.4	51.4	48.9	50.4	47.5	50.7	48.6
英語	全体	61.0	63.2	64.2	60.0	57.7	61.6	56.9	58.7	60.9
	基礎・基本	65.2	67.4	68.1	63.7	62.5	65.8	61.2	62.3	64.4
	思考・表現	51.6	53.7	55.3	51.5	46.8	52.3	47.8	50.6	52.8



III 特集

特集 1

結果が改善した学校はどのような取組をしたのか？

県教委では、学力向上に向けた取組を促す様々なメッセージを発信してきました。それらを受け止め、積極的に取り組んだ学校が増加したところ、県全体の結果にも以下のような改善が見られました。

取組内容	改善点 (数字は%。( ) は昨年度からの増減)																								
<p>1 管理職のリーダーシップにより、教職員の意識を高め、学校全体の組織的な取組につなげた。</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市町村・学校全体での研修</li> <li>○ 教育委員会・管理職の見届け</li> </ul>	<p>学校における組織的な取組が増えた。</p> <table border="1"> <tr> <td>学力調査の活用</td> <td>小学校</td> <td>中学校</td> </tr> <tr> <td>結果を全職員で分析した。</td> <td>91.7 (+2.0)</td> <td>82.4 (+15.3)</td> </tr> <tr> <td>管理職の取組</td> <td>小学校</td> <td>中学校</td> </tr> <tr> <td>学力向上に係るプランを示し、推進体制を整えている。</td> <td>89.3 (+6.1)</td> <td>78.3 (+4.1)</td> </tr> </table>	学力調査の活用	小学校	中学校	結果を全職員で分析した。	91.7 (+2.0)	82.4 (+15.3)	管理職の取組	小学校	中学校	学力向上に係るプランを示し、推進体制を整えている。	89.3 (+6.1)	78.3 (+4.1)												
学力調査の活用	小学校	中学校																							
結果を全職員で分析した。	91.7 (+2.0)	82.4 (+15.3)																							
管理職の取組	小学校	中学校																							
学力向上に係るプランを示し、推進体制を整えている。	89.3 (+6.1)	78.3 (+4.1)																							
<p>2 思考、判断、表現に関する演習問題に意図的・計画的に取り組んだ。</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ かがしま学力向上支援 Web システムの演習問題等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考・表現の目標通過率5割を達成した教科が昨年度は7教科であったが、今回は全ての教科で達成した。また、達成率を大幅に伸ばした教科があった。</li> <li>・ 学校における演習問題等の活用が大幅に増えた。(p.59参照)</li> </ul> <p>(太字ゴシックは昨年度比10ポイント増を表す。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>思考・表現</th> <th>小5</th> <th>中1</th> <th>中2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td><b>68.4 (+20.9)</b></td> <td><b>73.6 (+15.1)</b></td> <td>66.4 (+ 8.0)</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td><b>69.0 (+10.9)</b></td> <td><b>60.1 (+13.6)</b></td> <td><b>64.6 (+22.0)</b></td> </tr> <tr> <td>算数・数学</td> <td>69.7 (+ 7.4)</td> <td><b>54.6 (+15.6)</b></td> <td>50.9 (- 3.2)</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td><b>70.2 (+22.4)</b></td> <td>51.3 (- 2.6)</td> <td><b>50.7 (+11.7)</b></td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td></td> <td>64.1 (- 3.8)</td> <td><b>51.6 (+10.2)</b></td> </tr> </tbody> </table>	思考・表現	小5	中1	中2	国語	<b>68.4 (+20.9)</b>	<b>73.6 (+15.1)</b>	66.4 (+ 8.0)	社会	<b>69.0 (+10.9)</b>	<b>60.1 (+13.6)</b>	<b>64.6 (+22.0)</b>	算数・数学	69.7 (+ 7.4)	<b>54.6 (+15.6)</b>	50.9 (- 3.2)	理科	<b>70.2 (+22.4)</b>	51.3 (- 2.6)	<b>50.7 (+11.7)</b>	英語		64.1 (- 3.8)	<b>51.6 (+10.2)</b>
思考・表現	小5	中1	中2																						
国語	<b>68.4 (+20.9)</b>	<b>73.6 (+15.1)</b>	66.4 (+ 8.0)																						
社会	<b>69.0 (+10.9)</b>	<b>60.1 (+13.6)</b>	<b>64.6 (+22.0)</b>																						
算数・数学	69.7 (+ 7.4)	<b>54.6 (+15.6)</b>	50.9 (- 3.2)																						
理科	<b>70.2 (+22.4)</b>	51.3 (- 2.6)	<b>50.7 (+11.7)</b>																						
英語		64.1 (- 3.8)	<b>51.6 (+10.2)</b>																						
<p>3 当該学年の1, 2学期の学習内容、基礎的な内容について繰り返し指導し、確実に定着させた。</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1, 2学期の復習の徹底</li> <li>○ 補充指導、個別指導の実施</li> </ul>	<p>基礎・基本の目標通過率(8割)については、7割5分以上を達成した教科は、昨年度は3教科であったが、今回の結果では6教科となった。</p> <p>(太字ゴシックは昨年度比10ポイント増を表す。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基礎・基本</th> <th>小5</th> <th>中1</th> <th>中2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td><b>76.6 (+11.8)</b></td> <td><b>82.8 (+19.6)</b></td> <td>78.1 (+ 7.1)</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>73.6 (- 6.2)</td> <td>67.2 (- 1.6)</td> <td>59.7 (+ 4.8)</td> </tr> <tr> <td>算数・数学</td> <td><b>79.9 (+ 1.9)</b></td> <td><b>79.2 (+11.2)</b></td> <td>65.9 (+ 0.8)</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td><b>87.5 (+27.8)</b></td> <td>71.5 (+ 9.3)</td> <td>61.6 (+ 5.7)</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td></td> <td>69.6 (- 6.9)</td> <td>65.2 (+ 6.9)</td> </tr> </tbody> </table>	基礎・基本	小5	中1	中2	国語	<b>76.6 (+11.8)</b>	<b>82.8 (+19.6)</b>	78.1 (+ 7.1)	社会	73.6 (- 6.2)	67.2 (- 1.6)	59.7 (+ 4.8)	算数・数学	<b>79.9 (+ 1.9)</b>	<b>79.2 (+11.2)</b>	65.9 (+ 0.8)	理科	<b>87.5 (+27.8)</b>	71.5 (+ 9.3)	61.6 (+ 5.7)	英語		69.6 (- 6.9)	65.2 (+ 6.9)
基礎・基本	小5	中1	中2																						
国語	<b>76.6 (+11.8)</b>	<b>82.8 (+19.6)</b>	78.1 (+ 7.1)																						
社会	73.6 (- 6.2)	67.2 (- 1.6)	59.7 (+ 4.8)																						
算数・数学	<b>79.9 (+ 1.9)</b>	<b>79.2 (+11.2)</b>	65.9 (+ 0.8)																						
理科	<b>87.5 (+27.8)</b>	71.5 (+ 9.3)	61.6 (+ 5.7)																						
英語		69.6 (- 6.9)	65.2 (+ 6.9)																						
<p>4 「難しい問題もあきらめずに最後まで取り組む」ことを児童生徒に指導した上で、調査を受けさせた。</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章量の多い問題、書く問題に挑戦させる指導</li> </ul>	<p>全ての教科で無解答率が低下した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小5</th> <th>中1</th> <th>中2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>1.7 (- 3.7)</td> <td>1.9 (- 5.9)</td> <td>3.4 (- 2.1)</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>2.8 (- 1.0)</td> <td>3.0 (- 1.9)</td> <td>5.2 (- 1.4)</td> </tr> <tr> <td>算数・数学</td> <td>1.1 (- 0.3)</td> <td>3.5 (- 3.5)</td> <td>8.8 (- 0.9)</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>0.3 (- 0.8)</td> <td>1.5 (- 1.0)</td> <td>4.3 (- 3.3)</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td></td> <td>1.3 (- 0.2)</td> <td>3.6 (- 3.2)</td> </tr> </tbody> </table>		小5	中1	中2	国語	1.7 (- 3.7)	1.9 (- 5.9)	3.4 (- 2.1)	社会	2.8 (- 1.0)	3.0 (- 1.9)	5.2 (- 1.4)	算数・数学	1.1 (- 0.3)	3.5 (- 3.5)	8.8 (- 0.9)	理科	0.3 (- 0.8)	1.5 (- 1.0)	4.3 (- 3.3)	英語		1.3 (- 0.2)	3.6 (- 3.2)
	小5	中1	中2																						
国語	1.7 (- 3.7)	1.9 (- 5.9)	3.4 (- 2.1)																						
社会	2.8 (- 1.0)	3.0 (- 1.9)	5.2 (- 1.4)																						
算数・数学	1.1 (- 0.3)	3.5 (- 3.5)	8.8 (- 0.9)																						
理科	0.3 (- 0.8)	1.5 (- 1.0)	4.3 (- 3.3)																						
英語		1.3 (- 0.2)	3.6 (- 3.2)																						



## 特集 2

# 演習問題の取組は、確かな学力の定着につながっているのか？

これまで各市町村教育委員会や各学校では、かごしま学力向上支援 Web システムに掲載されている演習問題等を活用して、児童生徒の確かな学力の定着を目指してきました。そこで、演習問題への取組状況と調査結果の関連から、今後の指導の工夫を考えてみましょう。

### 演習問題チャレンジ指数（以下チャレンジ指数）に着目!!

学校質問紙調査の回答を基に、各教育委員会が所管する学校の演習問題への取組状況を数値で表し、その数値を「チャレンジ指数」と呼ぶことにします。

#### 【学校質問紙（中学校 2 年）】

「思考力、判断力、表現力等」を育む問題への取組状況

#### 【A 教育委員会（7 中学校）の回答】

回数 \ 教科	国語	社会	数学	理科	英語
(ア) 月 1 回未満	1 校	0 校	0 校	0 校	0 校
(イ) 月 1 回	1 校	3 校	0 校	3 校	2 校
(ウ) 月 2 回	3 校	1 校	2 校	1 校	1 校
(エ) 週 1 回以上	2 校	3 校	5 校	3 校	4 校

A 教育委員会  
(2 年生) の  
チャレンジ指数  
16.9

#### 〈チャレンジ指数を求めよう〉

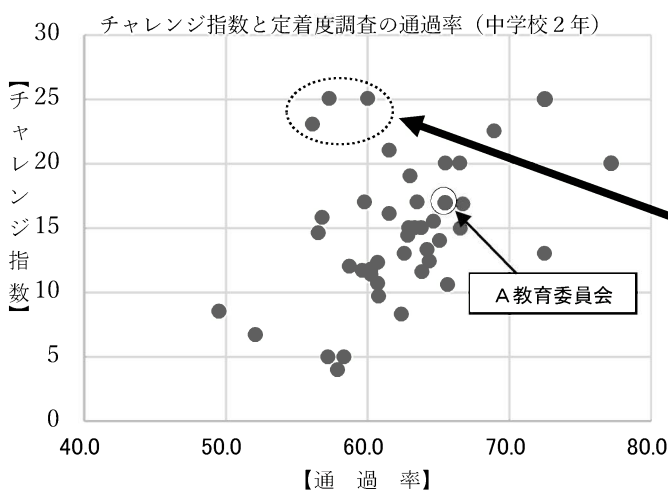
- ① (ア), (イ), (ウ), (エ) をそれぞれ 0 点, 1 点, 3 点, 5 点とすると

国語は  $0 \text{ 点} \times 1 \text{ 校} + 1 \text{ 点} \times 1 \text{ 校} + 3 \text{ 点} \times 3 \text{ 校} + 5 \text{ 点} \times 2 \text{ 校} = 20$

同様に求める 社会: 21, 数学: 31, 理科: 21, 英語: 25

- ② 5 教科の和を学校数で割る  $(20 + 21 + 31 + 21 + 25) \div 7 = 16.9$

### 【県内 43 市町村における中学 2 年生のチャレンジ指数と調査（5 教科）の通過率】



チャレンジ指数と通過率には、一定の相関関係があり、チャレンジ指数が小さいと通過率は低い傾向にある。

しかし、チャレンジ指数が大きくても、通過率が伸びていない場合もある。

#### POINT

演習問題に繰り返し取り組むことは通過率の向上に有効である。ただし、取り組む回数に加え、取扱い方の工夫や見届けの有無等も通過率の大小に影響する（工夫については、次ページ参照）。

#### 〈プラス α〉

チャレンジ指数は、各学校、学級の値も求めることができます。通過率との関係を調べることによって、指導の工夫に生かすことができそうです。

## 成果があった具体的な取組事例 ＜小学校・中学校共通＞

多くの学校で、所管の教育委員会等から提供される「今週の1問」や「かごしま学力向上支援Webシステム」の問題に取り組んだことが、効果的だったという報告が届いています。ただし、単純に児童生徒に問題を解かせることが目的ではありませんし、そのような方法では効果は表れません。

そこで効果的な活用方法を紹介します。

### かごしま学力向上支援Webシステムの掲載問題等の活用 ～児童生徒に「問題を解く力」をつけるために～



そもそもなぜ、かごしま学力向上支援Webシステムの掲載問題なの？

- 高校入試、大学入試・・・児童生徒はこれから多くの場面で思考力、判断力、表現力を問う問題を解くことが求められます。
- 必然的に、「思考力、判断力、表現力を問う問題を解く力」を身に付けさせていかねばなりません。
- 学力向上支援Webシステムには、思考力、判断力、表現力を問う問題が豊富に準備されています。

#### ① 活用方法についての共通理解と実施状況の見届け

- 頻度、実施方法、実施後の指導（解説等）について、共通の目安やルールを設けた上で、実施計画を立てている。
- 取組状況を管理職や係が確認をしている。

Point 1  
学校で組織的に取り組む。

#### ② 活用の具体例

- 授業中に学習課題として取り上げ、課題解決的な学習を展開することによって、授業改善を図っている。
- 章末や単元末に行う演習の時間に取り組ませている。
- 家庭学習の課題にし、次時の授業の中で解説を行っている。
- 定期テストの問題に取り入れている。

Point 2  
学校の実態に応じて工夫する。

#### ③ 効果的に活用するために

- 正答率の変化をチェックしながら、定着するまで、繰り返し、類題や同一問題を実施する。
- 「問題が解ける力を育む授業」への転換を図る。（授業の中に書かせる活動を積極的に取り入れるなど）
- 十分な解説の時間を確保する。（特に中学校）
- 児童生徒の能力、定着度に応じて出題する問題を選ぶ。（上位層には、より難易度の高い問題を）

Point 3  
確実にやりきる。

# 特集 3

## 課題と対策は学年を超えて共有されていたか？

昨年4月に実施された全国学力・学習状況調査において明らかになった課題が、下学年の指導に生かされず、翌年1月に行われた鹿児島学習定着度調査において、通過率が下がる結果となった問題がありました。

数学（目的に応じて式を変形し、事柄が成り立つ理由を説明する問題）

平成31年度全国学力・学習状況調査（中3）

9 (2) 予想2  
連続する5つの奇数の和は、中央の奇数の5倍になる。

上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成させなさい。

説明2

$n$ を整数とすると、連続する5つの奇数は、 $2n+1$ 、 $2n+3$ 、 $2n+5$ 、 $2n+7$ 、 $2n+9$ と表される。それらの和は、

$(2n+1)+(2n+3)+(2n+5)+(2n+7)+(2n+9)$   
=

	正答率	無解答率
県の結果 (全国)	57.0% (59.7%)	19.0%
自校の結果	%	%

令和元年度鹿児島学習定着度調査（中2）

5 2  
【しんいちさんの予想】

連続する3つの奇数の和は、3の倍数になる。

前ページの【しんいちさんの説明】を参考にして、次の説明を完成させよ。

説明

$n$ を整数とすると、連続する3つの奇数は  
 $2n+1$ 、 $2n+3$ 、 $2n+5$ と表される。

これらの3つの数の和は

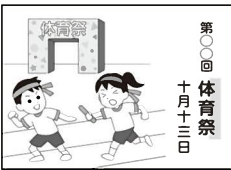
したがって、連続する3つの奇数の和は3の倍数になる。


	通過率	無解答率
県の結果	39.8%	16.9%
自校の結果	%	%

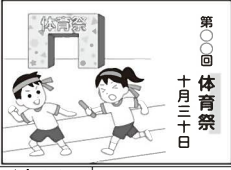
英語（「thirteenth（13日）」と「thirtieth（30日）」を聞き分ける問題）


平成31年度全国学力・学習状況調査（中3）

1 (3) 「music festival」「October thirteenth」の聞き取り

1  第〇〇回 体育祭  
十月十三日

2  第〇〇回 音楽祭  
十月十三日



3  第〇〇回 体育祭  
十月三十日



4  第〇〇回 音楽祭  
十月三十日

県の結果 (全国)	65.8% (72.3%)
自校の結果	%

令和元年度鹿児島学習定着度調査（中1）

1 (3) 「September thirteenth」の聞き取り

ア  イ 

ウ  エ 

県の結果	27.4%
自校の結果	%

調査結果の分析は、授業担当者や該当学年の教員だけで行うのではなく、学年や学級の枠を超えて行うことが大切です。その際、できなかった問題については、その要因がどこにあるのか、どのような指導を行えばできるようになるのかを協議し、学校全体で指導法改善等に取り組む必要があります。

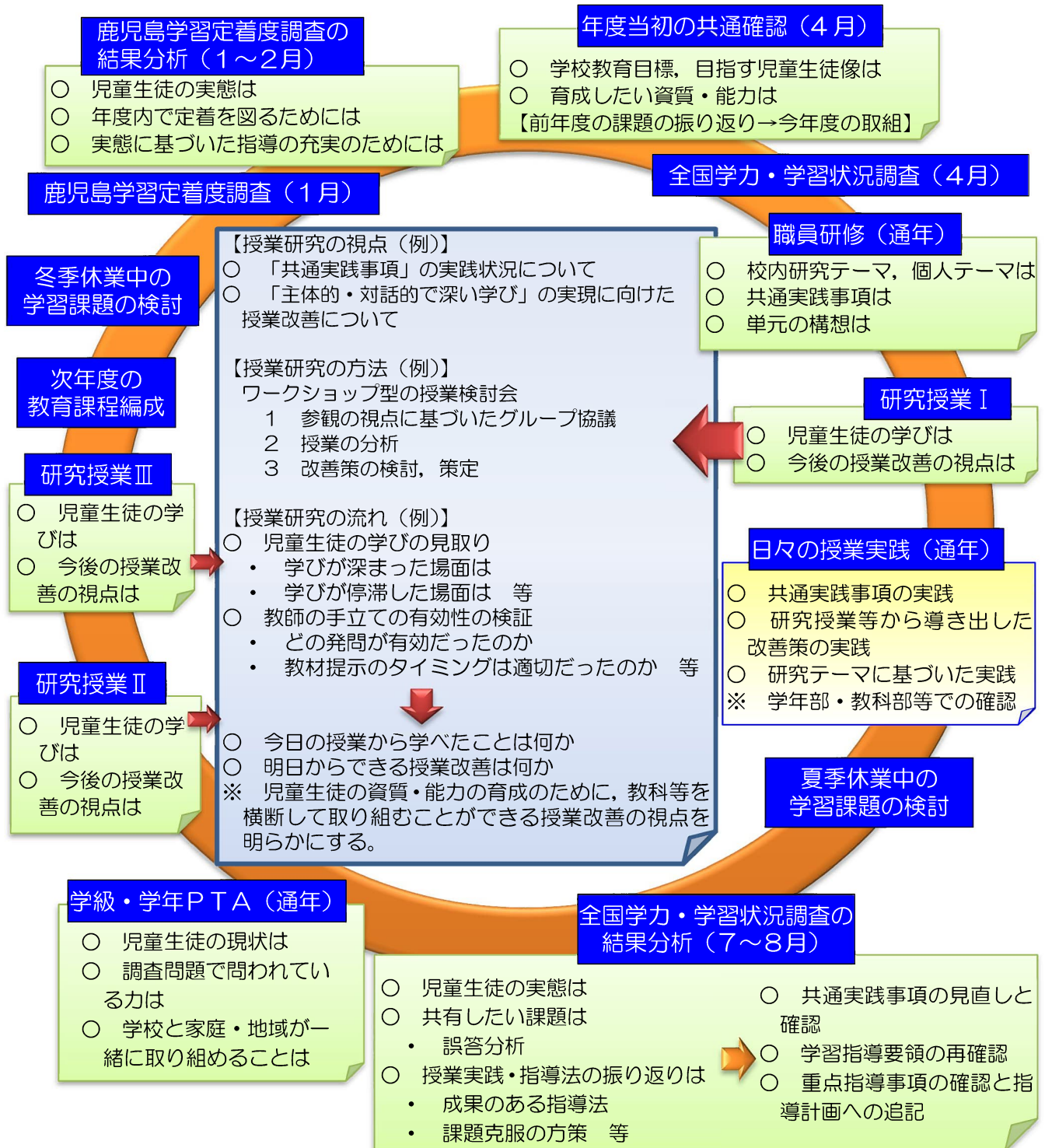
〈参考〉（「学びの羅針盤」 p. 21 参照）

## 組織で取り組む学力向上のサイクル

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めるためには、学力向上を目指した授業づくりや校内研修の充実を図り、教師が学年や教科を超えて組織的に学力向上のサイクルを意識して取り組むことが大切です。

それぞれの時期に応じて学校全体で行う学力向上の取組を参考例として示します。自校の実態に合わせた「本校の学力向上のサイクル」を作成してみましょう。

### 【学校全体で取り組む学力向上のサイクル（例）】



## IV 本調査の活用の仕方

- (1) 各教科で出題されている問題の内容や平均通過率について、領域や単元ごとの平均通過率や無解答率の状況等を確認して学校全体で情報共有したり改善策を検討したりする。
- (2) 自校の平均通過率の高かった問題や低かった問題、県平均通過率との差が大きかった問題等について、成果や課題を明らかにする。その上で、これまでの指導法を振り返りつつ、成果や課題の要因となった取組や状況について、校内で情報を共有する。
- (3) 本調査は単に該当する学年の状況のみを問うものではないため、校内で指導法を共有する際には、学年・教科を超えて全体で行う。特に、学校全体で課題として共有するために、各教科等の年間指導計画の中に重点事項としての取組内容等を朱書きする。

### 1 自校結果の把握

- 全体として各教科バランスよく学力が定着しているのかを確認するため、領域や単元ごとの通過率や無解答率の状況を県全体の平均通過率も踏まえて分析を行う。
- 各教科の単元ごとの学力が定着しているのか確認するため、小問ごとの平均通過率を確認する。「4 各設問の分類と平均通過率」(p. 29～)には、自校結果を記入するための欄を設けているので、校内研修等で各教員が記入するなどして活用する。
- 自校結果の把握に当たっては、単に平均通過率だけの把握にとどまることなく、児童生徒の誤答傾向に着目し、分析していくことが、指導法改善につながる。

### 2 自校結果の活用

- 自校の結果についてその特徴を明らかにしたら、その要因を把握する。その上で、これまでの指導法を振り返りつつ、今後どのような指導法が成果を更に伸ばし、課題克服につながるのか、校内で情報を共有する。
- 成果の上がっている取組については、学校全体で情報を共有し、「学びの羅針盤」(p. 2, 22)を活用するなどして学校全体で組織的に取り組む。
- 市町村教育委員会等と連携を図り、成果の上がっている学校の授業参観を行うなどして、その学校の取組を学び合い、児童生徒の実態に合わせて自校化する。
- 改善を要する取組については、その方法をできるだけ具体的に示す。また、その取組については、いつ、どの単元の中で指導するのか具体的に年間指導計画の中に朱書きして、今後の取組を行う。
- 改善策を策定する際には、併せて評価の計画も立てたり、確認のための再調査を実施したりするなどして、確実な定着を図る。
- 課題となっていることについては、当該単元での指導だけでなく、必要に応じて学年を超えて定着の確認をしたり、補充指導をしたりするなど学校全体(教科全体)での取組を行う。
- 学校全体の分析と同様に、児童生徒一人一人について調査結果からうかがえる実態を把握し、再指導を実施する。
- 「6 各教科の授業改善の視点」(p. 48～)を参考にしたり、「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載されている評価問題を単元末等に活用し、学習の定着を確認したりする。
- 児童生徒質問紙や学校質問紙の結果を生かして、指導法の改善や学習習慣の確立に取り組む。



### 3 本調査結果を生かした年間指導計画例

#### 外国語科（英語）年間指導計画 第2学年

〇〇中学校

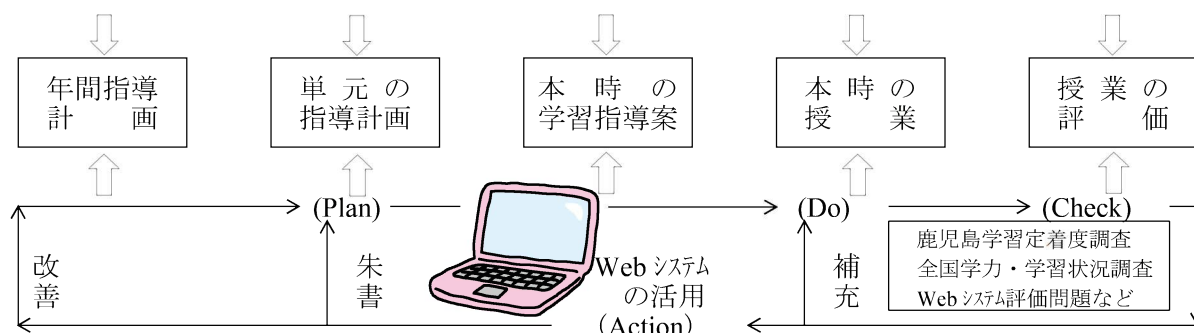
※ 指導計画に自校の平均通過率、県平均との差、指導の重点を朱書きしたものを。

月	単元名	各時の目標	◆言語材料、表現	評価規準	諸調査との関連
6	Unit 3	ある行動について、その目的を述べることができる。	◆不定詞(目的を表す副詞的用法) 【場面】注意書き 【話題】職業体験 【働き】注意する、指示する	イ 何かをする目的を述べることができる。(S) (W) ウ 注意書きの内容を読み取ったり、行動の目的を聞き取ったりすることができる。(L) (R) エ 不定詞の副詞的用法の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。	
		将来就きたい職業について尋ね合うことができる。	◆不定詞(名詞的用法) 【場面】対話 【話題】将来の夢 【働き】質問する、答える 【働き】感想を述べる、相づちをうつ	ア 友達の将来の夢について関心を持ち、積極的に対話をしている。 イ 将来就きたい職業について述べることができる。(S) (W) エ 不定詞の名詞的用法の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。	
		生徒の職業体験のレポートを読んで、その内容を理解することができる。	◆不定詞(形容詞的用法) 【場面】レポート 【話題】新聞記者 【働き】説明する、報告する	ウ 職業体験のレポートを読んで、その内容を理解することができる。(R) エ 不定詞の形容詞的用法の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。	R1 定着度 9 (4) 語順 35.4% (-7.0)
		生徒の職場体験のレポートを読んで、その内容を理解することができる。	◆不定詞 【場面】レポート 【話題】サッカー選手へのインタビュー 【働き】説明する、報告する 【働き】感想を述べる	ウ 職業体験のレポートを読んで、その内容を理解することができる。(R)	
		・ インタビューを聞いて、その内容を聞き取ることができる。 ・ 行きたい国やそこでしたいことについてインタビューをし、聞いた情報をまとめることができる。	◆不定詞 ◆SVOO 【場面】インタビュー 【話題】仕事紹介 【話題】夢の世界旅行 【働き】質問する、答える 【働き】説明する	ア 相手が行きたい国について、積極的に質問している。 イ 行きたい国やそこでしたいことについてインタビューをし、聞いた情報をまとめることができる。(S) (W) ウ 仕事についてのインタビューを聞いて、概要を聞き取ることができる。(L)	R1 定着度 9 (2) 語順 60.2% (-5.4)
9	Let's Read 1	物語を読んで、場面の变化や主な内容を理解したり、登場人物の心情に合わせて気持ちを込めて音読したりすることができる。	◇既習事項の総復習 ※ 要点の読み取り ●物語、英語劇 ★友情	ア 理解できないところがあっても、挿し絵を参考にしながら読み続けている。 イ 登場人物の心情に合わせて、気持ちを込めて音読することができる。(S) ウ 台本形式の物語を読んで、場面の变化や登場人物の心情などを理解することができる。(R)	H31 全国学調 7 要点の読み取り 26.4% (-3.2) R1 定着度 8 (1) 要点の読み取り 48.0% (-4.5)

#### 【指導計画見直しのサイクル】

よりよい授業を構想するためには、実践に基づいた指導計画を立てる必要がある。また、指導計画は授業を行った後に適切な評価を行うなどして、改善していかなければならない。そのためには、「計画 (Plan)」（年間指導計画、単元の指導計画・評価計画、1 単位時間の指導計画・評価規準）—「実施 (Do)」（本時の授業）—「評価 (Check)」（授業の評価）—「改善 (Action)」（計画の見直し）のサイクルを下図のように繰り返しながら、絶えず見直し、改善していくことが大切である。評価に際しては、本調査の積極的な活用を図る。

- ① 指導目標の深い理解（学習指導要領及び学習指導要領解説の熟読、学校教育目標の理解）
- ② 学校、児童生徒等の実態や課題の把握（各種学力調査、自校での評価資料）
- ③ ①、②を踏まえ、それを実現するための手法（教材研究、教材開発、指導法研究等）



（「平成31年度教職員のための研修の手引」（鹿児島県教育委員会）参照）

## V 各教科の結果

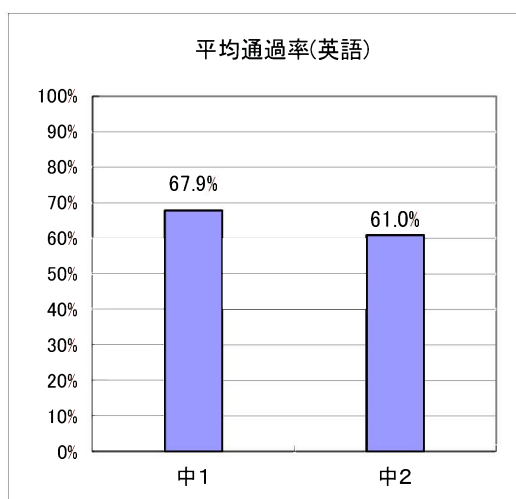
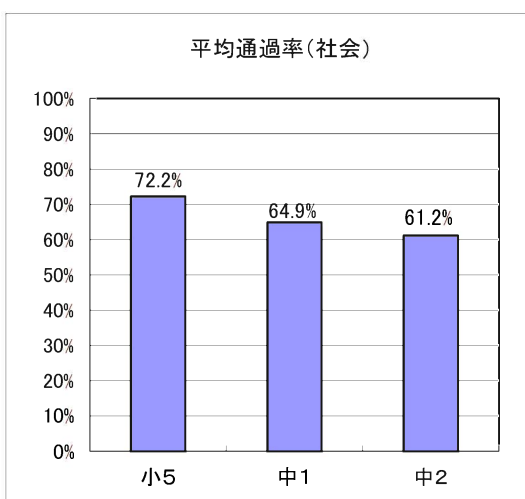
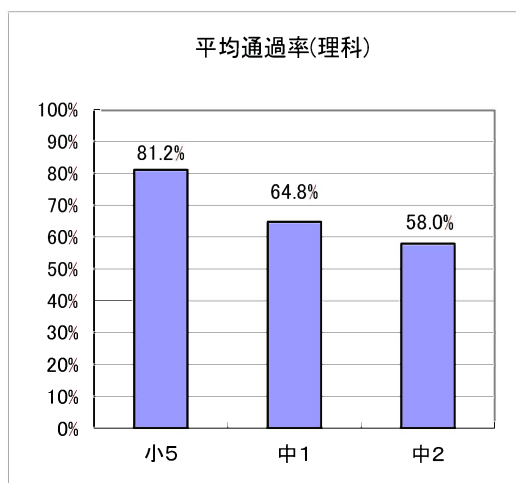
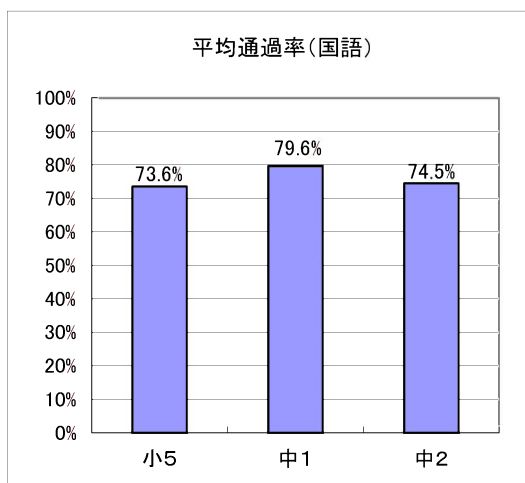
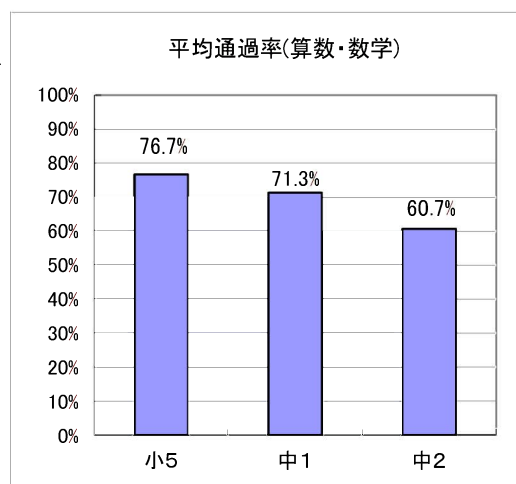
### 1 各教科の全体平均通過率

ここでは、教科ごとに調査実施学年の全体平均通過率を示しており、本県の総合的な学力の定着状況の概要を、教科・学年ごとに把握することができる。

本調査では、設定通過率を「基礎・基本」8割、「思考・表現」5割、全体の通過率を7割に設定し、調査問題を作成している。

本年度の調査では、設定通過率7割を超えた教科が14調査中7教科と、昨年度より4教科増え、改善が図られた。また、全体の通過率が7割に達していないものの、中2社会、中2理科、中2英語など、昨年度と比べ、通過率が向上したものもある。

一方、中1英語は通過率が下がり、また、中2数学は昨年度と同程度にとどまっております。改善の兆しが依然として見られない。





## 2 各教科の結果概要

- 「基礎・基本」の問題に関しては、昨年度の調査では、通過率が40%程度となっている問題が多くあったが、本年度は、表現された言葉や内容を正確に理解する力、観察器具などの適切な使い方などの問題で、基礎的・基本的な内容の定着が図られた。
- 「思考・表現」の問題に関しては、資料等の中から根拠となる情報を取り出して正確に書き出したり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめたりする力について改善が図られた。
- しかしながら、今回の調査においても、「日本の地域構成」や「物理の計算」、「英文の要点把握」など、同様の課題が継続している問題があり、指導法改善等の取組が必要である。

### 【国語】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	76.6%	68.4%	73.6%
中1	82.8%	73.6%	79.6%
中2	78.1%	66.4%	74.5%

- 平均通過率が全ての学年で目標としていた7割を超えた。正答が期待される問題を確実に正答できるようになったものと見られる。
- 「基礎・基本」については、全ての学年で概ね定着が図られている。読解力につながる基本的なスキルに関する問題を小5、中1で同一問題として出題した。中1が小5を14ポイント近く上回ったが、中学校においては、問題文に関連する理科の知識が正答につながったのか、文の中の主語、述語を正しく理解して読めるようになったのかを検証し、小中連携の取組の中で読解のスキルを高めてほしい。
- 「思考・表現」については、概ね良好な状態であった。特に中学校では、自分の立場で考えをまとめて記述する問題の通過率が高かった（中1、中2大問5の三）。日頃の取組により、自分の考えとその理由を分かりやすく表現できるようになっている。

### 【社会】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	73.6%	69.0%	72.2%
中1	67.2%	60.1%	64.9%
中2	59.7%	64.6%	61.2%

- 「基礎・基本」については、小5は概ね定着は図られているが、中1、中2の歴史的分野において定着が十分でない。特に、中1は小学校で学習した歴史上の人物、東アジアの国々との交流の様子に関する問題、中2は中世ヨーロッパの文化、日本と外国との交易の様子、江戸時代の文化の特色に関する問題など、定着が図られていないところが見られた。
- 「思考・表現」については、資料やグラフ等から読み取ったことをまとめたり、比較して分かったことを説明したりする問題などで、課題が継続している。中1、中2においては、無解答率が高い問題もあり、特に、中2は気候の特色を生かした産業や江戸時代の松前藩とアイヌとの関係を問う問題の無解答率が高くなっている。  
定着が図られていない問題については、個別指導や補充指導を徹底する必要がある。

【算数・数学】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	79.9%	69.7%	76.7%
中1	79.2%	54.6%	71.3%
中2	65.9%	50.9%	60.7%

- 「基礎・基本」については、小5では、概ね定着しているが、基準量と比較量の関係、台形の面積の問題に課題がある。中学校では、中1がほぼ8割に達した。しかし、比例のグラフや数量関係、不等式の立式の問題に課題がある。中2では、代表値、二元一次方程式の立式、回転体の体積といった基本的な知識を問う問題に依然として課題がある。
- 「思考・表現」については、説明する問題の通過率が低く、無解答率も高い。小5では、目盛りの間隔が異なる二つの折れ線グラフを比べ、それぞれの変化量を読み取り、変化の様子を説明する問題に課題がある。中1では、時間内の到着やきまりに従って並べることの可否について判断し、その理由を文字式を用いて説明する問題に課題がある。中2では、 $n$ 角形の外角の和の説明、大きさの異なる二つの集団における傾向の説明、資料の傾向を読み取り説明する問題に課題がある。

【理科】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	87.5%	70.2%	81.2%
中1	71.5%	51.3%	64.8%
中2	61.6%	50.7%	58.0%

- 「基礎・基本」については、小5が8割を上回り、定着が図られている。中1、中2では8割を下回っており、定着が十分ではない。中1では「融点」を答える問題の平均通過率が低く、基本的な理科の用語の定着が図られていない。中2では追跡調査問題である圧力を求める問題や、実験の結果をグラフに書いて表現する問題の平均通過率が依然として低く、課題がある。
- 「思考・表現」については、中1、中2は5割程度である。小5では、グラフを用いた考察に課題が見られる。中1では、月の見え方（小6内容）、音の波形の読み取り、密度の活用の平均通過率が低い。中2では、考察したことを文章で表現する問題や表からデータを整理、活用する問題、化学変化をモデルで表す問題に課題がある。

【英語】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	—	—	—
中1	69.6%	64.1%	67.9%
中2	65.2%	51.6%	61.0%

- 「基礎・基本」に関して、中1については、英単語の正確な聞き取りや書き取りに関する問題、ポスターから必要な情報を正確に読み取る問題などで通過率が低く、全体として通過率は下がっている。また、中2については全体として通過率は上がったが、中2で履修する基本表現に関する問題や、グラフの内容を正しく読み取る問題などに課題がある。
- 「思考・表現」に関しては、中1、中2ともに、聞くことと読むことにおける概要の把握については改善が図られているが、要点の把握に課題が残っている。特に、英語を聞いたり読んだりして理解したことを基に考えなどを書く問題では無解答率が高い。また、与えられたテーマについてまとまりのある内容を書く問題では、中1、中2ともに、特に正確さの点において課題が継続している。